

子育てママが生き生き働くまちづくりプロジェクト（滋賀県大津市）

他地域からの転入等による人口増が進む中、子育て期の女性の就労率が低い水準にある状況に着目し、子育て世代に配慮した大学の生涯学習事業と産官学連携事業を融合させ、就業機会を求める子育て期にある女性と人材確保に努力する地元中小企業の効果的なマッチングにより新しい都市型ワークライフバランスモデルを実現する。



大津市の子育てママたち

キャンパス内の
受講者用託児室



平成20年度の主な取組

- ① 中小企業等の支援機関の有識者からなるプロジェクトチームにより、地元中小企業へのヒアリング・アンケート結果の分析、データベースによる就業支援システムの構築
- ② 子育て期にある女性のスキルアップを目指した育成プログラムの開発・実施。

平成21年度以降の展開

ヒアリング・アンケート結果を踏まえ、子育て期にある女性等の活用等に係る提言の実施、育成プログラム等の内容の見直しを図りながら、地元中小企業の人材確保・育成システムによる雇用創出等を実現する。

「kikidasプロジェクト～木々を出す、地元から聞き出す、そして森林の危機を脱する！～」 (滋賀県湖東地域)

豊富な森林という資源を有しながらも木材・木製品製造業の低迷・森林管理者消滅の危機に直面する地域の現状を打破するため、幅広い構成員が連携。各団体の得意分野をいかし、これまで売り物にならなかった雑木や小径木の活用や、二酸化炭素吸収量に着目したモデルにより、地域産業の創出、持続的な森林資源の管理を目指す。



間伐材活用紙

小径木間伐材及びその活用例(林野庁HPより)

平成20年度の主な取組

- ① 小径の間伐材を活用した「kikidasペーパー」を試作し、森林を守ることの大切さを伝えながらサポーター企業を募る。
- ② 二酸化炭素の森林吸収量の認証等専門家による委員会を設置し、現地調査や試算等を実施するに当たっての留意点等課題を検討し、ローカルルールの提案をまとめる。

平成21年度以降の展開

平成20年度の調査検討を踏まえ、地域材をトータルコーディネートし、小径材の利活用の事業化。また、地球温暖化防止への貢献度合いを数値化しインセンティブとする等の取組を実施する団体を設立し、地域内で間伐材を資源として循環させる自律的な仕組みを構築。

幻の都・恭仁京と名宝・加茂の三塔を活かした民学官による観光まちづくり (京都府木津川市)

地域公共交通を観光要素を加味した利便性の高いシステムに転換するとともに、魅力ある自然・歴史的文化遺産などの資源を市民を中心とした民・学・官協働により見直し、情報発信を拡充させることで、観光資源活用による中山間地域活性化モデルを目指す。



↑ 九体阿弥陀如来像(国宝)が
安置される浄瑠璃寺本堂

地域を走るコミュニティバス →

平成20年度の主な取組

- ① コミュニティーバス路線に国宝・重要文化財等の観光資源を加えた回遊性の高い路線設定により観光ネットワークとしての機能を強化。住民と観光客双方の利用増による収益改善を図る。
- ② 地域の文化遺産の映像データベースやポッドキャスト機能などITを活用した新しい観光プレゼンテーションの仕組みづくりを行い、観光入込客の増加と、リピーター化を図る。

平成21年度以降の展開

利便性の高い新しいバスシステムを構築・推進、地域資源を活かした新情報システムの充実と新たなコンテンツの発掘による観光人口の増加と交流を図り、更には平城遷都1300年記念に向けた地域内共同事業による地域の活性化及び、元気な地域の再生を図る。

「ふるさと振興事業」

(京都府綾部市)

過疎・高齢化により地域活動などの維持・存続が厳しい集落で、潜在的な綾部ファン掘り起こしのための積極的な体験交流事業、定住希望者が安心して暮らしていくための自律的経済基盤づくりと官民一体となった生活サポート体制など、定住・交流人口の持続的拡大につながる総合的なパッケージプランの提供により、集落の再生を図る。



← 入母屋づくりの
民家と清流
(古屋の集落)



交流イベント『茶つみ体験』
(里山ねっとHPより) →

平成20年度の主な取組

- ① 綾部ファン発掘の為に農村都市交流イベント、田舎暮らし体験ツアー等の実施
- ② マツタケ・薪等特産品の再生に向けた研究、生産拡大、ブランド化等による自律的な経済基盤の強化
- ③ 定住サポート窓口の開設、定住サポート隊の編成、空き家見学ツアーの実施等による定住人口拡大の支援

平成21年度以降の展開

各取組に対する活動推進により、集落の再生と自立を促すとともに、持続可能な集落づくりを実現する。あわせて、先行地域での成功事例を市内の農村部全域に拡大し、農村集落再生のモデルプランの実践と定着を実現する。

「和泉農業ヒト・モノ・カネ活用プロジェクト」（大阪府和泉市）

農（近郊農業）・商（商店街）・工（大規模工業団地）・住（ニュータウン）が近接し、域内での異業種連携が可能な地域の特色を活かし、ICカード活用等「商」のマーケティング手法を活用した農業観光・経営、「工」の手法を応用した農業人材育成等により都市型農業の再生と地域商工業・地域住民との共生を実現。



都市住民の体験観光
や異分野からの開発
手法導入

連携



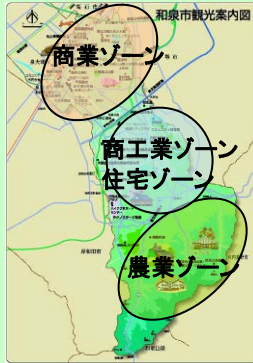
商店街

地域産品販売、商店
街でのマーケティング等



工業団地

ものづくりノウハウの
提供等



平成20年度の主な取組

- ① 顧客ニーズに応じた地元産品の取引ネットワーク構築のため、ICカードによる行動分析、飲食店のニーズ調査を実施。
- ② 地元大学と連携し、マーケティングや、ものづくり手法を導入した農業経営カリキュラムを作成。
- ③ 商工会議所、市、NPOが連携し都市住民を中心とした体験交流農業を実施。

平成21年度以降の展開

試験実施をふまえた会員制体験農園の事業化、回遊・消費行動分析等を活用した効果的な販路拡大、ものづくり人材講座の定着等により、ヒト（農商工ものづくり人材）、モノ（食物・家・仕事）、カネ（儲かる仕組み）が地域に集まる自律的な都市型農業モデルを実現する。

「大阪蔵屋敷ネットワーク」による北前船ルート地域活性化ビジネスモデル構築

（大阪府大阪市ほか）

かつて「天下の台所」と呼ばれた大阪と北前船で結ばれた地方との交流・連携を現代に復活させ、地場産品と大阪の観光資源を紹介する拠点・「蔵屋敷」制度、北前船ゆかりの地方と合同開催する「ぼうさい朝市」等、人材育成・防災ネットワーク・地域物産交流の複合的な取組みにより、水都大阪の再生を図る。



平成20年度の主な取組

- ① 大阪で活動する北前船ルート各地の出身者を地域連携の核となる人材（「蔵奉行」）・交流拠点（「蔵屋敷」）として育成・認定。連携して水都大阪の川筋観光を推進
- ② 川筋防災訓練と地域物産展「ぼうさい朝市」を大阪と山形・最上川（連携自治体）でテスト実施。

平成21年度以降の展開

人材育成の定着、ぼうさい朝市で連携する自治体の拡大、事業組合（LLP）を実施。水都大阪の魅力向上、都市と地方の交流機会の創出を図り、全国的なネットワーク構築により新しい共存共栄モデルを展開することにより、自律的な人材交流・地域物産交流を展開する。

ユニバーサルツーリズム事業の振興と障がい当事者の一般就労機会の創出による地域活性化プロジェクト (兵庫県神戸市)

障がい者・高齢者等が、旅行の目的地から介助サービス等を受けることにより健常者と同じように旅を楽しむことのできるユニバーサルツーリズム(UT)の取組を、地域の障がい者が自らの視点で企画し、推進していくことにより、福祉サービスと旅行業のコラボレーションによる新たなサービス産業の創出や障がい者の一般就労の拡大を図る。



ユニバーサルツーリズム
の取組

平成20年度の主な取組

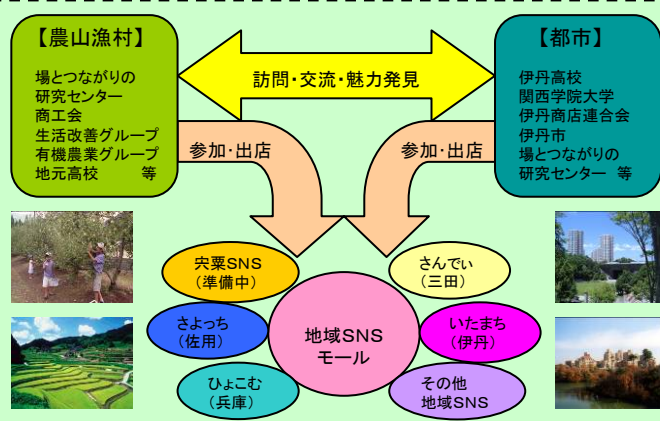
- ① UT事業を支える地域の移送、宿泊、介助など、各サービス提供者とのネットワークを強化するための連絡協議会の組織化と互いの情報を共有する仕組みを構築
- ② 各サービス提供者向けの講習会・研修会のプログラム開発、講習会・研修会の開催。障がい当事者を対象とした事業マネジメント講座やガイド育成講座のカリキュラム開発とモデル講座の開講
- ③ 地域の旅行会社との共同による障がい者・高齢者等を対象とした商品開発やモニターツアーによる実証調査、車椅子レンタル・サービスシステムの構築

平成21年度以降の展開

UTサービス提供者資格認定制度の検討と大学等の教育機関と連携したUTカリキュラムの開発による人材育成を進めるとともに、国内の他地域へのUT事業の水平展開による地域内外のネットワークづくりを推進することにより、全国で同様のサービス提供を目指した事業連携の組織づくりによるUT事業の拡大を図る。

地域SNSを活用した都市－農山漁村間ヒト・モノ交流システムによる元気再生モデル開発事業 (兵庫県宍粟市、佐用町、三田市、伊丹市)

高校生・大学生といった次世代の担い手を中心となって、「相手の顔が見え」「常につながりが意識できる」特性を持つ地域SNSモールを活用して、「ヒト」「モノ」両面での持続可能な交流の拡大による都市・農山漁村双方の活性化を図る。



平成20年度の主な取組

- ① 地域SNS(※)を活用して商品売買を行う地域SNSモール及び各地域SNSの連携システムを開発し、これを活用した都市と農山漁村とのヒト・モノの交流を図る
- ② 高校生・大学生が農山漁村の特産品などを発掘し、CM(紹介ムービー)を作成して地域SNSモールで発信するなど、地域の魅力をPRする
- ③ 都市部の中心市街地の空き店舗を活用したパイロット店舗の開業など、ネット上のみでなく実際に交流できる場づくりを行う

※SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス):人々とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型の会員制のWebサイト

平成21年度以降の展開

他の地域SNS導入地域をも含めた更なる交流促進を進めるとともに、集落コミュニティの維持に向けた小規模農家を支えるための具体的な連携の強化に取り組む。さらに、地域SNSを活用し、地上デジタルテレビ、カーナビなど身近なツールによって情報を受信できる仕組みづくりを進めることにより、都市と農山漁村の更なる交流を進める。

日本の古都奈良が発信する「なら国際映画祭」にともなう国際観光・地域産業の活性化と人材育成(奈良県奈良市)

地元出身の世界的映画監督と連携し、世界に誇る文化遺産・地場産業が今も息づく地域特性を活かし、住民が運営に積極的に参加する「なら国際映画祭」を準備、開催、継続していくことにより、文化をはじめとした地域資源の発掘、世界に通用する人材育成、地場産業の振興をすすめ、真の文化国際観光都市として再生。



世界遺産での上映を検討
(上映実績のある興福寺)



映画の舞台となった
地域の情報発信
(例:奈良市田原地区)

平成20年度の主な取組

- ① 住民を中心としたサポーターを募集。地域の魅力を発信できる支援体制を構築。
- ② 国際的なネットワークを有する専門家と連携し、出品作品の調査を実施。
- ③ HPの開設・運営、宿泊型公開講座の開催により、内外に映画祭と地域の情報を発信。

平成21年度以降の展開

映画祭の実現に向けた地域内外の支援ネットワークの強化、国内外への情報発信のさらなる強化、映画祭の内容構築を経て、平成22年度以降毎年世界的規模の映画祭を実施。文化を大切に世界から多様な人々を受け入れるホスピタリティを持った地域人材の育成と内外へのブランド力の強化との相乗効果による地域産業の活性化を実現する。

「世界に開かれたKUMANOをめざして」～外国人向けATA(エリアツーリズムエージェンシー)－Destination Management Companyの設立 (和歌山県田辺市)

世界遺産熊野古道をはじめとする世界的観光資源を有するKUMANOを世界に発信し外国人観光客を受け入れていくためのエリア・ツーリズム・エージェンシー(着地型旅行会社)を官民協働のコンソーシアム形式で設立し、全ての地域産業が連携して観光商品の開発、受入体制の充実に取組む「まるごと観光産業のまち」を目指す。



熊野本宮大社
(熊野本宮観光協会HPから)

熊野古道(田辺市熊野ツーリズムビューローHPから)

平成20年度の主な取組

- ① 欧米における着地型旅行の事例調査をし、事業の方向性や課題の抽出。地域農産品等を来訪外国人向けに活用できるよう改良・開発を進める。
- ② インターネット調査等を用いて欧米等諸外国の旅行ニーズを把握し、旅行商品の開発に活用。モニターツアーも実施し、旅行商品の改良にも取組む。

平成21年度以降の展開

地域農産品等を活用した新旅行や商品の開発、外国人旅行者の受入体制の整備を行い21年度中に事業会社の設立を推進。22年度には旅行商品の販売をはじめとし、ツアーの企画・受付・手配・調整・精算までをひとつの窓口で行う着地型旅行事業を本格展開。

「村ぶろ戦略 北山村」～じゃばら・いかだ・飛び地を活かした自立性の高いむらづくり～ (和歌山県北山村)

村が運営する「村ぶろ」というブログのシステムを全国各地に提供し、これをネットワーク化する地域ブログ横断ポータルサイトを構築し、地域間交流を活性化させる。また、新たな地域産品を横断ポータルサイトを活用して全国に発信し、販売促進を行うことにより、ITを活用した自立性のある村づくりを目指す。



じゃばら

じゃばらとは、全国でも北山村だけでしか作られていない柑橘で、「邪(気)をはらう」ところからこの名前がつけられた縁起のいい果実です。(北山村HPから)

体験筏下りの様子(北山村HPから)



平成20年度の主な取組

- ① じゃばらの新たな活用方法を検討(「じゃばら水」の商品化やじゃばらを利用した商品開発と販売施略など)。
- ② いかだの廃材・間伐材を活用した木質バイオマスシステムの計画の構築。
- ③ 「村ぶろ」システムを全国各地に提供し、ネットワーク化することによって地域ブログ横断ポータルサイトを構築する。

平成21年度以降の展開

地域ブログ横断ポータルサイトの本格稼働によりブログを介した交流を活発化させ、山村留学や体験観光にも取り組む。製品化した新たな商品の販売を実施し村のブランド化を図る。公共施設で利活用可能な木質バイオマスの実証実験を進め、バイオマスボイラーの稼働に取り組む。